

---

# Silent Majority

龍奈 身形

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

S i l e n t M a j o r i t y

### 【Nコード】

N 2 9 4 5 Z

### 【作者名】

龍奈 身形

### 【あらすじ】

魔法使いには恐れるものがある。一つ目に、自分より魔法使い。二つ目に人外。そして殺し屋。

この話は、一人の殺し屋に目を向けた話である。

1 ; August 22 殺し屋の仕事後

そこは何の変哲のないマンションの一室だった。

時はすでに深夜0時を回っている。そこに二人若い男女の姿があった。

男のほうは、壁際にある椅子に腰かけていている。

女のほうは、壁にもたれかかっていた。

ここまでではなにもおかしくはない。普通だ。

この二人が深夜にこの部屋にいるのも、この二人の関係によって理由は異なるとしても、おかしい話ではない。これもまた普通。

しかし何かがおかしい。言葉で聴くだけなら、文字を読むだけなら、なにもおかしいことはない。が、

実際この部屋に訪れ、見た者は、間違いなく口をそろえてこう言うだろう。

異常だ。

異常だった。何が異常かと問われるなら、まず一番の異常は、女の腹部に、ナイフが刺さっていることだ。？それはただの殺人現場異常なことは何一つないじゃないかって？

そうではない。確かにナイフは刺さっていた。ただし、数十本。

数十本のナイフが女の腹を抉り、貫き、そして確実に女の命を射殺<sup>ころ</sup>していた。

刺口からは夥しい量の血液が流れ、床を真っ赤に塗りたくる。

そして次の異常は、男だ。彼の手には、女に刺さっているナイフと同じ形のナイフが握られている。それは男がこの女を殺したという紛れもない真実を表している。

そして男の目の前には、何かが無造作に転がっていた。

色は赤。形はトマトをぐちゃぐちゃに潰したかのように、とても

強い咽かえるような臭い。これはまるで

「腐ったイチゴだな」

口を開いた。誰が？この部屋には二人しかいない。

部屋の隅で丸椅子に座り、片手にナイフを握る男と、壁にもたれ、腹から血を流している女。そして女はすでに生きてはいない。

男は、道徳心というものがわからない。幼少の時、彼は初めて殺しをした。殺しといってもそんな大層なものではない。猫を一匹殺した、それだけのことだ。それだけのことだけど、彼は実感した。これが生きていうことなんだと。生きていることの証明は死があることで生がある。言ってしまうえば死がなければ、生きていくことにはならない。もっとも彼が1年前に手合わせした吸血鬼は不老不死を有していたが・・・。

この考えを男は今でも変えていない。男にとって殺しとは、生を否定するものではなく、肯定するもの。女は殺されたのではなく、生かされたのだ。

すこしまわりくどくなってしまうたが、結論から言うと、男の言う「腐ったイチゴ」は紛れもなく女の臓器だった。心臓があること自体異常だが、あと一つ以上があるとすればそれは男がそれらを見ても、何もアクションを起こさないことだった。

いくら殺す・・・否、生かすことに躊躇しないからといって、話は別だ。不快なものを見たら、気分が悪くなる、「これは「腐ったイチゴ」を見た、色が赤い、臭い、気持ち悪い」ではなく、「腐ったイチゴを見た」 「気持ち悪い」という、例えるなら反射、さらにわかりやすく言うなら人間的本能なのだ。それに耐えられるのは、何十年も経験を重ねているベタラン医師ぐらいだと思ったのだが・・・。

まあここでは、男は「腐ったイチゴ」を幾度となく見てきたベテランの殺し屋だと理解することで妥協するとしよう。

コンコン

突然の来訪者。

こんな夜中に何の用だろうか。普通はそう思うのだが、その男はやはり異常だった。

「次来たやつが魔法使いだったら殺す」

座っていた丸椅子からゆっくり立ち上がると、男は一步、二歩と息を潜め、ドアの前に立つ。一度深呼吸をして、左手に持つ手に持つナイフに力を込める。

そして勢いよく、ドアを開けると同時に左手のナイフを突き出した

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2945z/>

---

Silent Majority

2011年12月10日13時46分発行